

6. 26 事件

千葉の県人 鎌田 留吉 6月14日記

アベノミクス相場も第一ラウンドは終了し、連日乱高下を繰り返している。しかし黒田日銀総裁による大幅な資金供給はこれから本格化するのであり、このまま終焉に向うとは思えない。ただ、当初のような総花的株価上昇はひとまず終了したと考えるべきであろう。これからは外国人ではなく、眠りから覚めた日本人が投資主体となり、銘柄も絞られ、「～相場」と名付けられる「バブル」になっていくものと思われる。かつて物色対象が「資源株」や「IT」関連に絞られ、バブル化していったようにである。

そしてその方向性は既に定まっていると考えて良いのではないか。昨6月13日、日経平均が843円も下げる最中に、ストップ高した銘柄がある。ペプチドリーム(4587)である。公開価格2,500円で11日に上場したが当日は値がつかず、12日に現金預託で3.16倍の7,900円で初値がつき、9,200円で取り引きを終えた。その翌日の13日は寄り付きから買い物を集め結局1,500円ストップ高の10,700円で比例配分された。この原稿を書いている現在1万3千円台で推移している。25万円で3日間で100万円取れた勘定になる。これ以外でも最近薬品関係の銘柄群が乱舞している。

以前から述べているように、バブルが発生するには「新」とか「革命」とか「夢」に繋がる要素が必要である。そしてアベノミクスの第三の矢が、裏づけのない数字の羅列であることが明らかになると、現在の日本に残された「夢」は日本発の革命的技術「iPS細胞」しかないのではないか。

来る6月26日に上場が予定されているリプロセル(4978)はまさに「iPS細胞」事業を柱としている。リプロセルのリプロは **reproduction** (再生) からとってきたものとはばかり思っていたが、**reprogramming**(初期化)から取ったのだという。

reprogramming(初期化)とはこういうことだ。我々の体は約60兆個の細胞から出来ているが、最初はただ一つの受精細胞からスタートする。それが分裂に分裂を重ねるなかで、肺や眼や心臓等に分化していく。そして一旦分化した細胞は二度と受精卵のような未分化の状態には戻れないと考えられてきた。しかし1996年にイギリスで世界初のクローン羊ドリーが誕生したことでその常識は覆えされた。なぜなら大人の羊の乳腺細胞の核を別の羊の卵子の核と入れ替えて生まれたのがドリーだからだ。一度分化した体細胞が時間を遡り未分化の状態に戻れることが解かった。このように未分化状態に戻すことを **reprogramming**(初期化)という。

山中氏はそれを、一般細胞である皮膚細胞から、しかも3万個以上と言われている遺伝子の中から僅か4個の遺伝子を挿入させただけで実現させたのである。2007年11月のことだ。そのニュースは世界を駆け巡り、村トウスからバチカンから祝福の言葉がよせられた。そして僅か5年後のノーベル賞へと発展していく。21世紀になってまだ13年既に21世紀最大の発見になのではないかとされている。その「iPS細胞」事業を核とする会社が6月26日に上場しようとしている。これも今や、事件だ。

